

5・みんなで早く正しく 危険予知

「安全先取り」の手法である危険予知活動も、月に1度の実践ではヒューマン・エラー事故の防止にはあまり効果は望めません。その時は感受性が鋭くなったとしても時間がたてば鈍ってしまい、安全な行動の日々の実践につながらないからです。そして、現場の危険は待ってはくれません。一瞬一瞬で危険の内容は変わります。

そこでこれに対応するためには毎日毎日、作業の直前にその日の作業の危険について短時間のミーティングで話合うことが必要となってきます。

「危ないことを本当に危ない」と感じる危険に対する感受性も、一人一人の安全な行動へやる気も、毎日、要所要所での危険予知活動を行うことによって高まります。

そのためには、イラストシートを使って、あるいは現場で現物で、さっと1分、3分、5分で「話し合い、考え合い、分かり合っ」てみんなのやる気で目標を必ず実践することが大切です。「みんなで早く正しく」危険予知をするには、毎日毎日の訓練が必要なのです。

